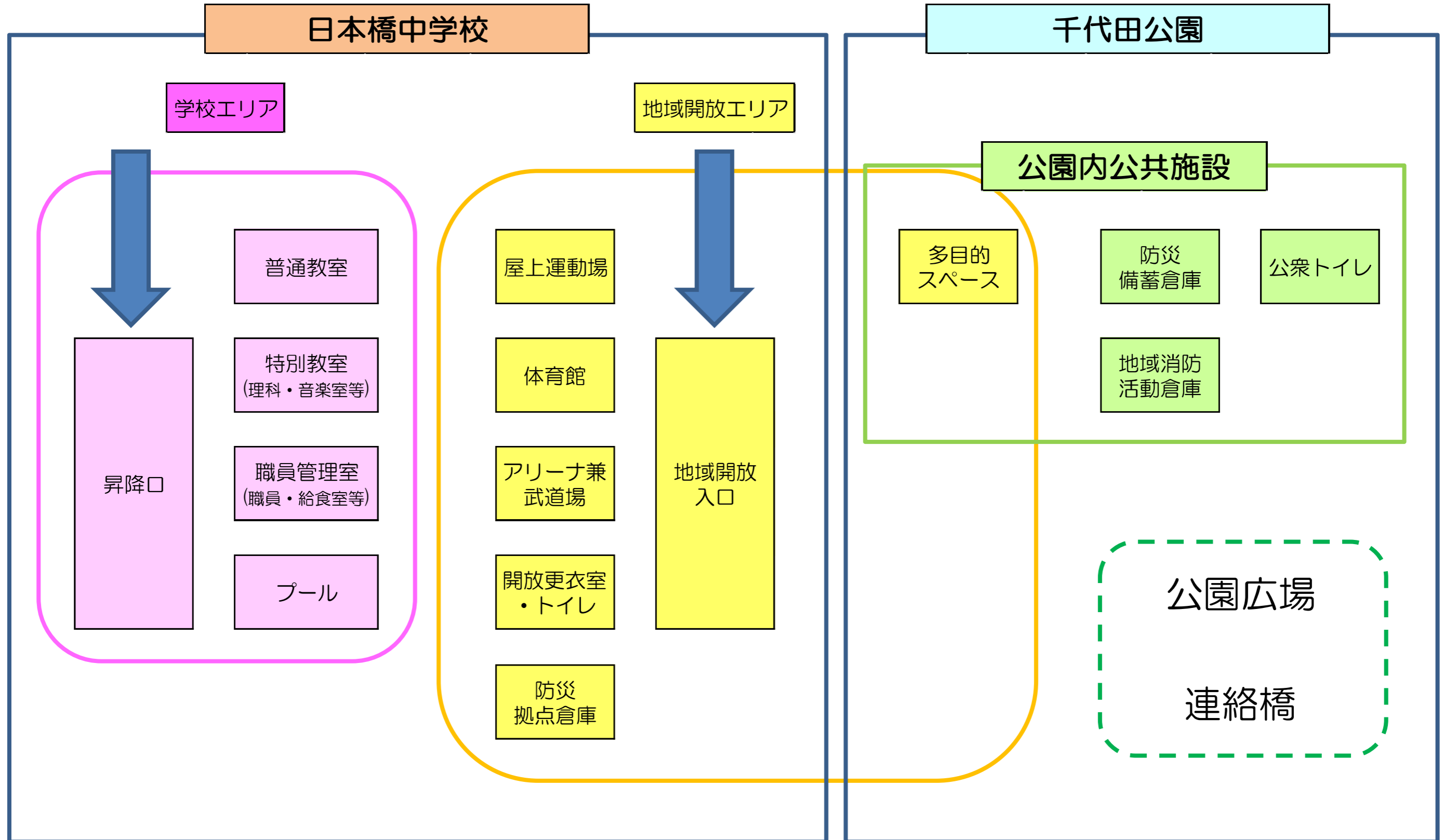


必要諸室関係図



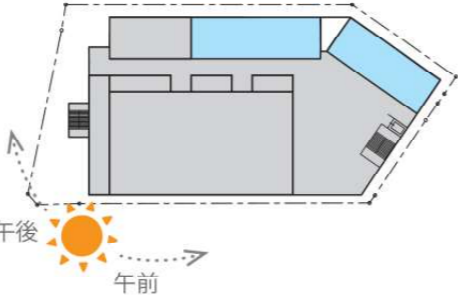
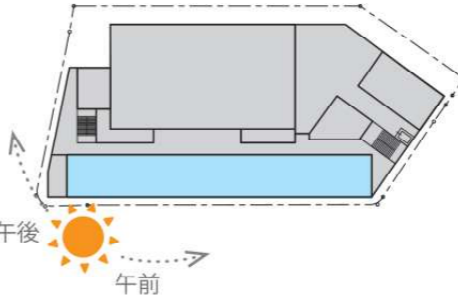

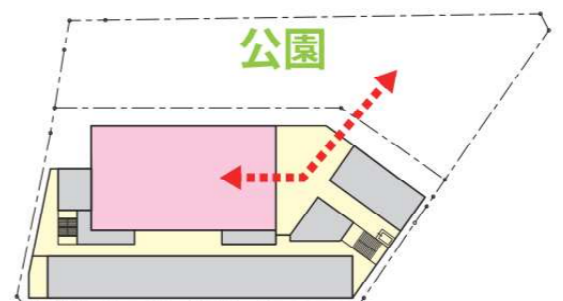
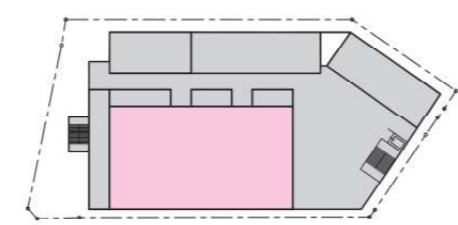
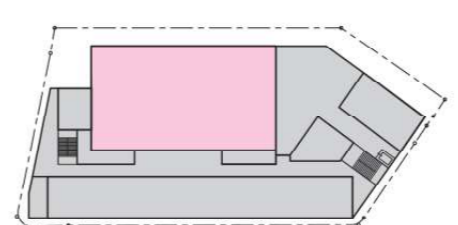
公園・学校敷地比較表



日本橋中学校は、隣接する千代田公園の一部を学校敷地として併用しているため、それぞれの面積を現状のまま維持し、形状の変更を検討の上、再編整備する。

公園・学校配置案		A案	B案
公園	御幸通り・隅田川テラスとの繋がり(動線)	✕ 御幸通りから隅田川テラスへ直接アクセスできない	◎ 御幸通りから公園を介して一体的に隅田川テラスに繋がる
	公園広場の確保	○ 公園地上部でまとまった広場を確保しやすい	○ 公園地上部でまとまった広場を確保しやすい
学校	屋上運動場の確保	△ 屋上が細長くなり、周回走路(トラック)のカーブ半径が狭くなる	○ 周回走路(トラック)のカーブ半径を緩くできる
	公園とのつながり	○ 1階・2階広場の両方に面している	○ 1階・2階広場の両方に面している

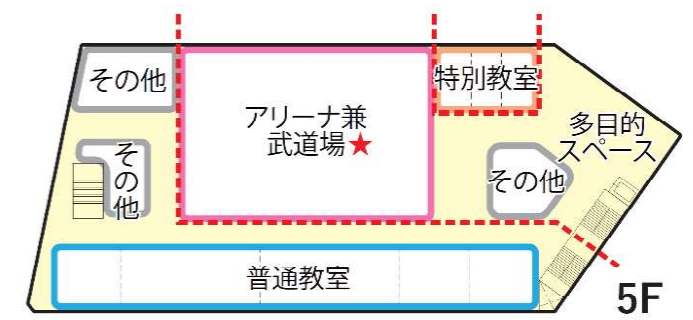
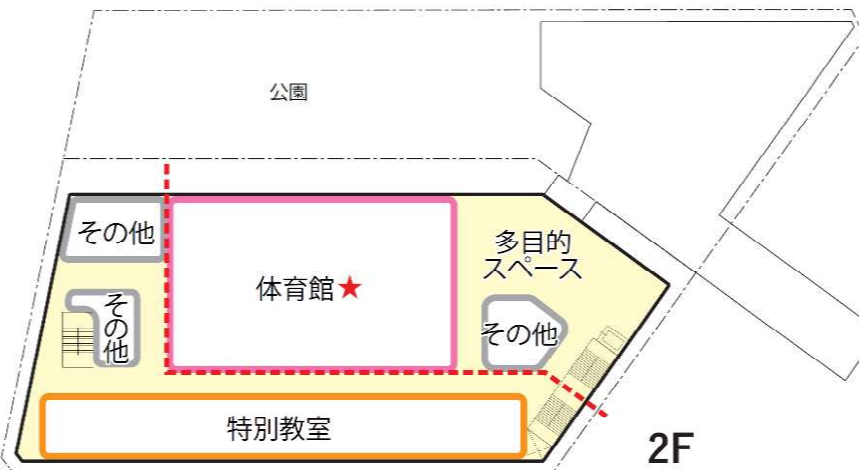
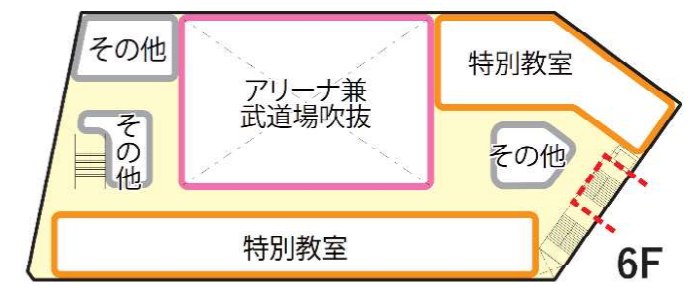
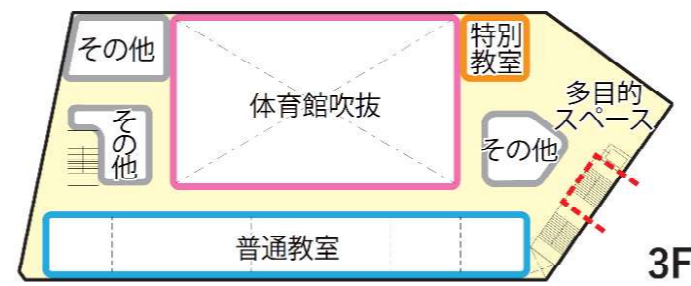
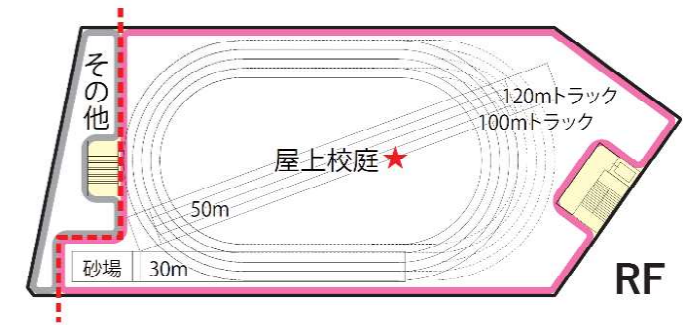
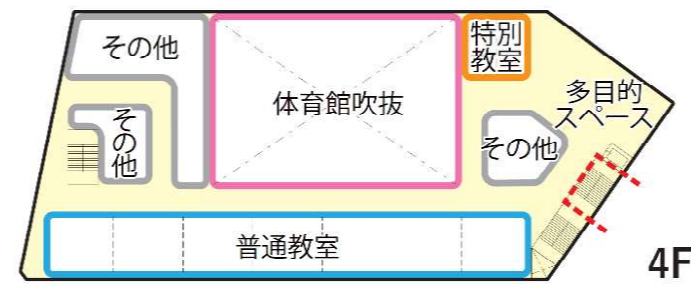
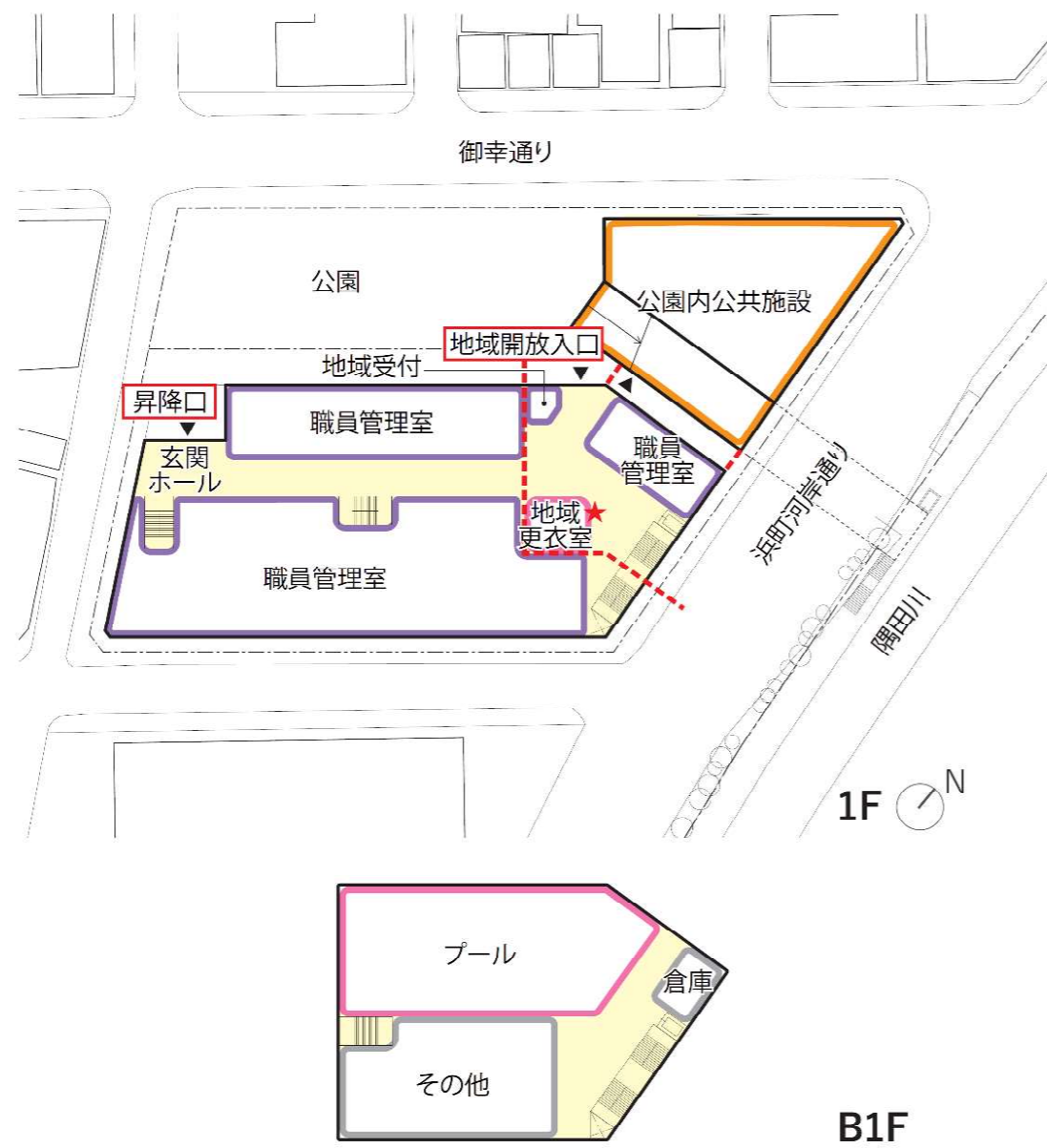
学校の基本配置比較

案	A案	B案
普通教室の採光	 <p>△ 教室の採光が確保しにくい</p>	 <p>○ 教室の採光を確保できる</p>
公園との繋がり	 <p>× 公園への動線や眺望が確保できない</p>	 <p>○ 公園への動線が確保できる</p>
大空間 構造上の合理性	 <p>○ 構造的なバランスが良い</p>	 <p>○ 構造的なバランスが良い</p>

各階ゾーニング比較表

案	A	B	C
各階ゾーニング			
授業間の上下移動	◎	△	△
地上から普通教室までの移動	○	◎	△
普通教室の採光	○	△	◎

■ゾーニング図

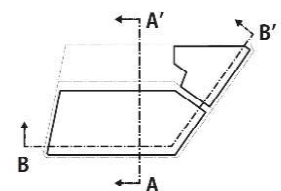


【凡例】

- : 普通教室
- : 特別教室・公園内公共施設
- : 職員管理室
- : 運動エリア
- : その他
- : 廊下・階段・多目的スペース
- ★ : 地域開放
- : 管理区画ライン



A-A'断面図



B-B'断面図

公園ゾーニング案の検討

公園のゾーニングについて評価軸を基に検討し、案を作成しました。

1 地上広場面積

公園の地上広場面積が広いほど、地域行事や災害時にオープンスペースとして活用しやすくなります。

2 屋上広場面積

建物屋上に公園として整備する広場も、まとまった空間があると遊びや憩いの機能を発揮しやすくなります。

3 連絡橋・公園動線の交錯

地上広場から屋上広場に移動する公園利用者と連絡橋を使う歩行者の動線が交錯すると利用しにくくなります。

4 屋上広場の眺望

A案はスカイツリーのある北東側に、B案は東側に眺望が開けています。

5 連絡橋と集合住宅の離隔

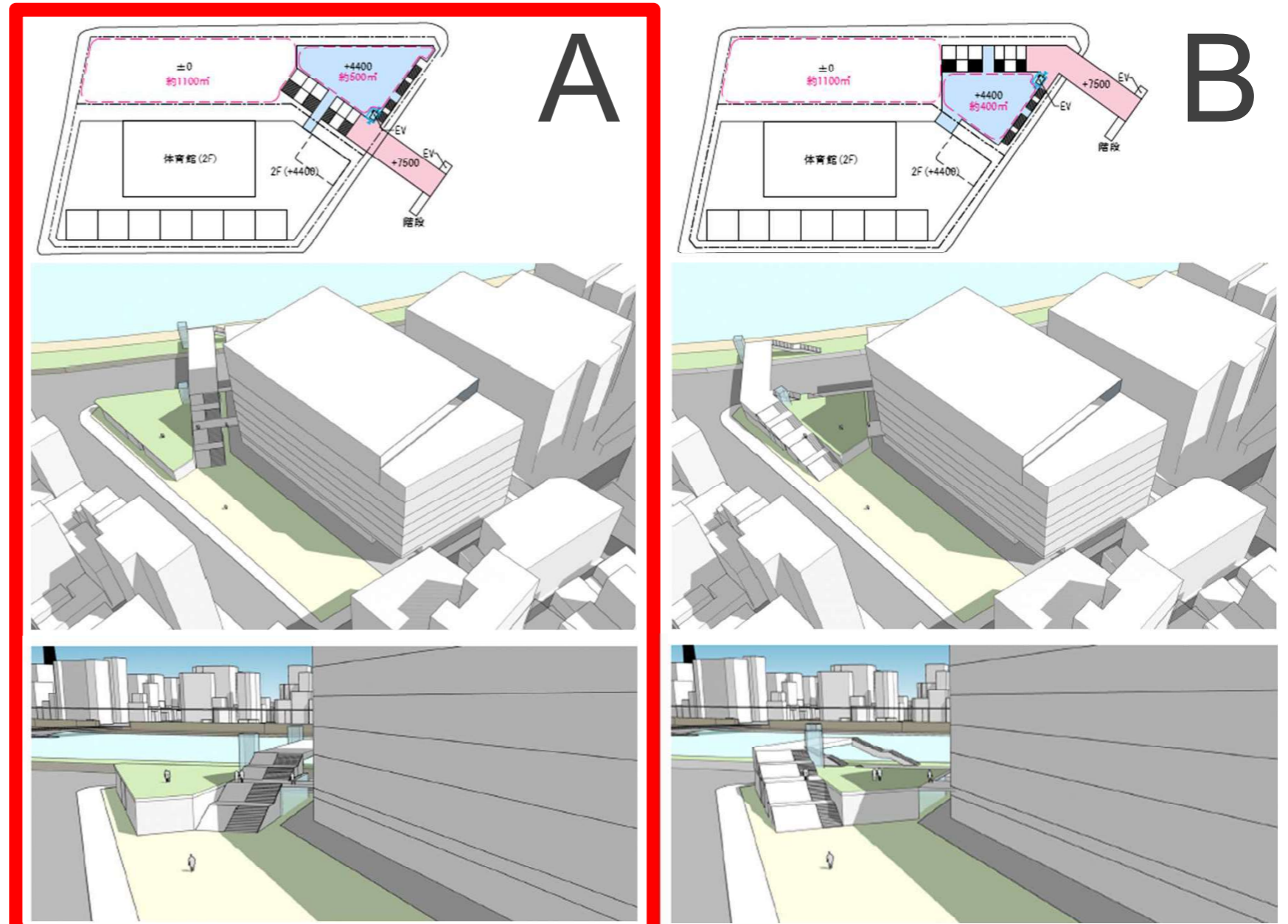
3Fレベルの高さとなる連絡橋と集合住宅の離隔を取ることで、プライバシーに配慮できます。

6 御幸通り側から見た開放感

公園の顔となる御幸通り側から見たときの開放感があることで、公園が快適で居心地のよい空間になります。

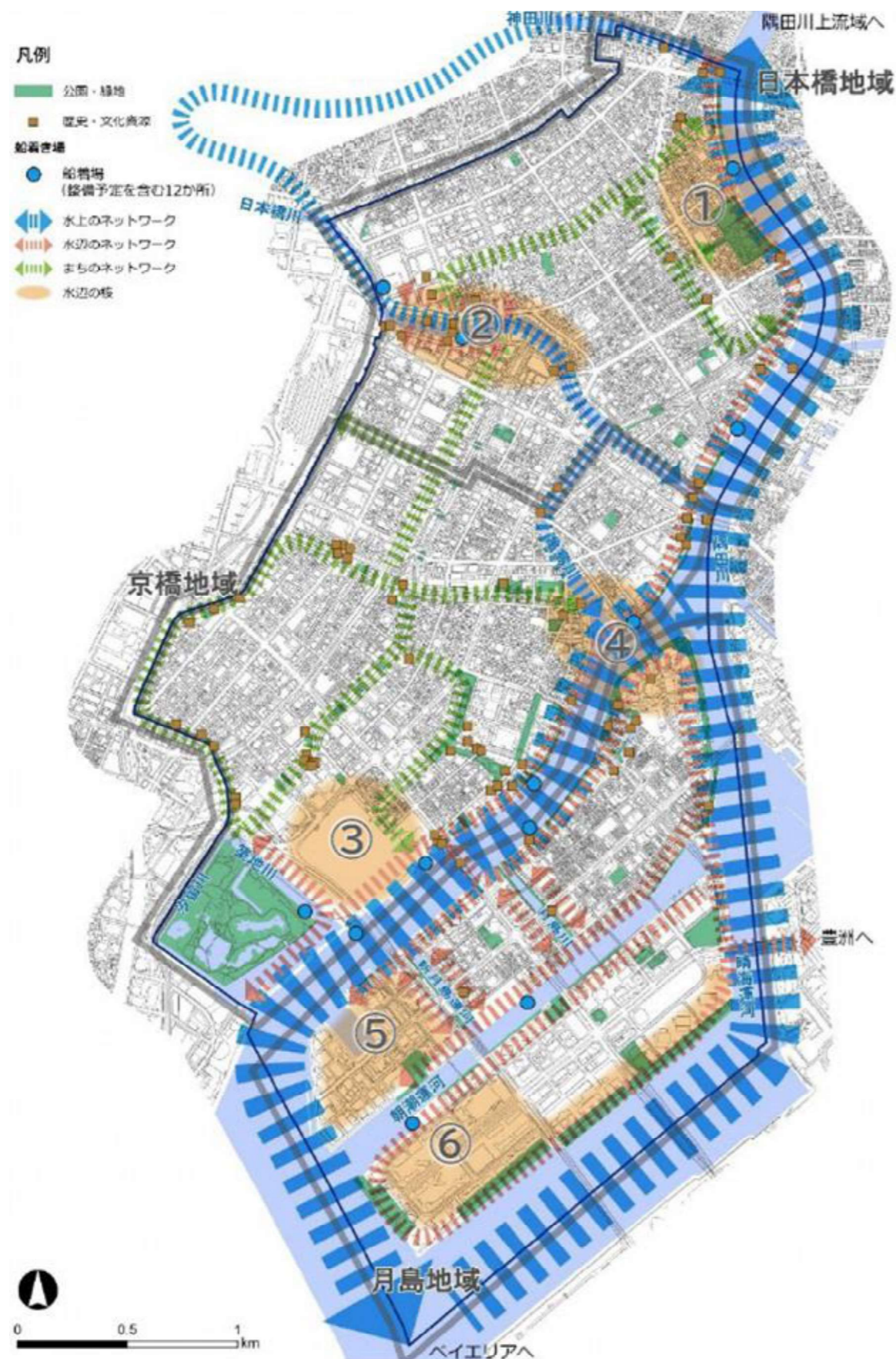
7 連絡橋公園側EV位置

A案は公園から連絡橋のEVへのアクセスがB案と比べて遠回りになります。



評価軸	A案	B案
地上広場面積	○	○
屋上広場面積	○	△
連絡橋・公園動線の交錯	△	○
屋上広場の眺望	○	×
連絡橋と集合住宅の離隔	○	△
御幸通り側から見た開放感	○	○
連絡橋公園側EV位置	△	○
評価	○	△

「中央区水辺環境の活用構想（令和5年7月）」より



■ 「水上・水辺・まち」で核をつなぐ

水上ネットワーク：
隅田川沿川区と東京湾隣接区をつなぐ広域交通軸

水辺のネットワーク：
水辺のテラスや水辺の散策路をつなぐ歩行者ネットワーク軸

まちのネットワーク：
まちなかの歴史ランドマークと緑道をつなぐ回遊軸

○ 浜町公園周辺

- 公園と緑道が接続しており、水辺へのアクセスが良好
- 千代田公園を中心に浜町公園から両国橋まで親水空間で連続となった水とみどりのネットワーク化が必要

